

平成29年度の年間の活動

1. 年間行事

1) 定例行事

毎月5日に定例会議を開催しています。協議会の幹事が集まり、年間行事の進捗、手伝いの日程調整等について話し合いを行っています。また、定例会議では外観の改修を希望する物件や空き家の状況についても随時話し合われています。5月には総会、1月には新年会と全会員が集まる会議も開かれています。

◆年間行事◆

- 2・3月 ひなまつり
- 4・5月 さくらまつり、端午の節句まつり、協議会の総会、おいでゃんせ祭り
- 6月 ほたる祭り
- 7月 七夕飾り
夏休みこども寺子屋事業
 - ・広島空港にて災害対策の学び及び工場見学ツアー
 - ・まちゼミに参加して染織体験
- 8月 お盆にキャンドルナイト 地区の夏祭りに協力
- 9月 お月見会
- 10月 おいでゃんせ祭り
- 11月 地区の神社の祭りに協力
- 12月 年末から正月にかけてキャンドルナイト（ライトアップ）
- 1月 協議会の新年会

2. 年間行事から発展した活動

1) ライトアップ

毎年12月の年末から正月にかけて初詣の方へのおもてなしのために、神社の参道や街道沿いにライトアップしてきました。今年度は、石州街道出口地区に隣接する商店街を中心に行われる「府中まちなかにぎわいライトアップ」に協力し、街道沿いをライトアップしました。普段は街灯だけの町並みに温かい灯りがともり、昭和の風情を醸し出しています。

2) おいでゃんせ祭りへの大学生の参加

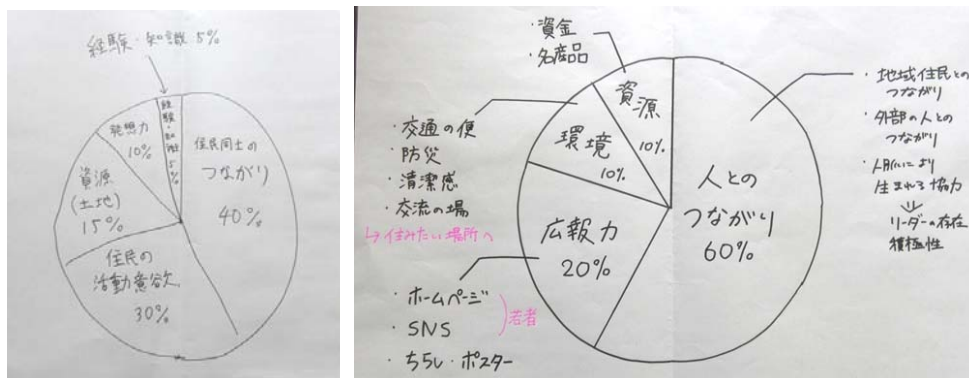
県立広島大学1年生の学生4名が「地域の理解」という授業の一環で、石州街道出口地区を訪れ、おいでゃんせ祭りに参加しました。焼きそばの販売やコーヒーなどの接待を学生と一緒に行いました。その後、地区内を案内し、住民数名と意見交換を行いました。学生らは地区や協議会の活動からまちづくりを始めるために、そして持続していくために、必要な要

素5つについて円グラフを使って発表してくれました。

学生の声として、「地区や協議会の活動が活発な理由は住民同士の絆の深さがある。住民の皆さんが楽しむ姿や私たちを温かく受け入れて下さることで、そう感じた」「絆が長年の付き合いで出来てきたのではなく、イベントなどをあえて行って絆づくりをしているという話が印象的だった」「県内出身だが、府中ことは初めて知った。今の地区に必要なことはSNSなどによる情報発信だ。もっと多くの人に地区の魅力を伝えていくことが大切だと感じた」「出口に来た方に買ってもらう特産品や名産品などがあるとよい」「空き家の活用も進み、若い人が転居してくると聞いて、協議会の活動を若い世代に少しずつ継承していくことが大切だと感じた」などの意見があった。協議会でも今後の参考にしていきたい。



祭りの手伝いの後、学生らが街を歩き、協議会と意見交換をする



学生の発表グラフ

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. 銀の道にちなんだ広域連携活動

2011年の「銀の道フェスティバル・飛脚プロジェクト」の開催前から続いている広域連携活動で、本年度も「銀の道」ウォークを行いました。三次市から府中市の出口地区まで多くの方に参加していただき、数日に分けて、徒歩で銀の道をたどりましました。協議会ではイベント前に草刈りなども行いました。引き続き、広く多くの方に知っていただくために、広域連携活動を進めていきます。

2. 空き家の活用に向けた歴史的建造物の見直しと空き家の活用

1) 歴史的建造物の見直し

石州街道出口地区ではこれまで歴史的な町並みが残り、修景事業が進められましたが、歴史的建造物の内部の調査は行われてきませんでした。そこで、空き家活用が検討されている歴史的建造物の建築調査を行い、改めて出口地区の町並みの価値を見出し、活用方法に活かしていきたいと考えました。

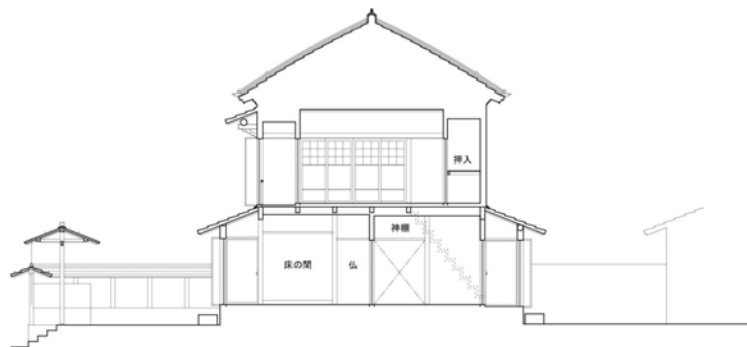
昨年度に引き続き、建築を学ぶ大学生等に協力してもらい、2軒の建築調査を実施しました。

- 切妻入りの2階建の町家である。母屋と3つの付属屋と2つの蔵、庭で構成されている。母屋(A棟)の土間を抜けると、通路と庭を挟み込むように片側に2つの付属家と蔵、もう片側に付属家と酒蔵が配置されている。間口は狭いが奥行きは非常に深い建築物である。以前は現在の敷地よりも、さらに奥行きが深かったと言われている。建築年代もかなり古いもので、家屋の規模や保存状況などを含めて、出口地区を代表する町家の一つだと考えられる。





- 府中市出口地区の出口公園に面して建つ屋敷建築。もとは大戸直純の別宅であった。今でも住居として使用されている保存状態の良い屋敷である。この屋敷は、母屋、2つの付属屋、蔵、玄関門、庭(巨木)、板塀で構成されている。母屋の建築年代は、明治22年と台帳に記載されている。当時は平屋建て役所として使用されていた、と言われている。庭には石灯籠や手盛鉢(ちょうずばち)がある。また、庭は植栽が豊かで、巨木(松)がこの屋敷の景観の一部となっている。外部および内部においても非常に贅沢な仕様の、府中を代表する屋敷建築の一つだと考えられる。



2) 空き家の活用事例調査

現在、石州街道出口地区では、空き家が出ると若い世代の方々が移住してきます。移住者は近隣の空き店舗等を活用して商売を始める若者です。そうした彼らの空き店舗の活用調査を行いました。空き家の活用の方法や今後の課題などについて聞き取りを行いました。

下記の事例の多くは「季のむら」を拠点に、人との広がりや空き家の片づけからDIYまでのリノベーションの方法を学んでいます。我々ができることは、こうした活動と連携して、空き家移住者と石州街道出口地区内の空き家の所有者との橋渡しを行うことです。

今後も若い世代の空き店舗利用者らと協働して、移住支援をしていくことが重要だと考えます。また、こうした空き家への移住支援や空き店舗の活用方法などの情報を他の地区へ発信していくことも大切な役割だと感じました。

【事例1】恋しき

- ・歴史的な建物、府中市民にとってのハレの場、ランドマーク
- ・町並みと連携して、周遊できるルート作り
- ・継続していくためには資産や運営資金、固定資産税など会計の管理が必要
⇒持続可能な運営支援が必要、周遊してもらえるようなルート作り

【事例2】季のむら

- ・外から、多くの人の協力で改修が進む
- ・古いもの、手づくりが好きな人が集まってくる
- ・モノ作りの町だが、地元の人には地域の資源に気づいていない
- ・空き家の活用は、交渉した人は理解があるが、その家族への理解が困難
⇒所有者家族や近隣との関係の構築（あいさつや報告）
⇒女性の就業支援

【事例3・4・5】ハイジ、森の家、valca café

- ・手づくり（作る所から楽しむ）
- ・運営も多くの人とつながる
- ・本物、こだわりの商品や空間で、ここを目的に訪れる
- ・府中は暮らしやすい、利便性の高い町
- ・何かをした後に飲むコーヒー。何かを生み出す。
⇒共同運営、助成事業が後押し
⇒空き家の延命措置。抜本的な解決にはつながらないことへの対策
⇒DIYで余生を楽しむための空き家活用



調査検討費の用途

- 景観保全や交流事業にかかる費用
 - ・ ひな祭り・月見の会・七夕まつりでの会場設営・装飾材料代
 - ・ 夏休み子ども寺子屋事業の交通費や講師料
 - ・ 桜まつりでの保険料・交通整理の警備費・衣装レンタル料等
 - ・ ライトアップの資材費
- 広域連携活動に関する費用
 - ・ 打ち合わせやイベントに関する交通費
 - ・ ガイド育成勉強会の講師料
- 歴史的建造物の見直しや修景事業の評価の調査にかかる費用
 - ・ 調査協力者の旅費
 - ・ 歴史的価値、修景事業の評価についての専門的知識の提供

近い将来取り組まなければならない課題

1. 景観保全の持続のために必要な方策の検討

石州街道出口地区まちづくり協議会では、街なみ環境整備事業の終了後、修景基準を継続していくことが合意されました。ここ数年の外観の改修では協議会への相談があり、進められてきました。しかし、今後は住民の世代交代が進み、また空き家も増加していることから、修景基準について十分に理解されていない建物の所有者が増加していくと考えられます。今後は、そうした所有者の方々にも、修景基準や協議会の活動について理解をしていただけるよう、説明をしていく必要があると考えます。

また、歴史的な建築物の建築調査を進め、外観だけでなく、建物全体の歴史的な価値についての評価を行い、住民に広く周知を図っていくことも大切ですし、その建物を残していく方策についても検討を進めていきます。

2. 石州街道出口地区での活動を他の地域に広げていく：地域間連携

石州街道出口地区での活動は2001年から始まり、今年で17年を数えます。様々な活動を行ってきました。今後は府中市の他の地区にも広げていくことが、地域全体の魅力向上につながっていくと考えています。特に歴史的な町並みが残る上下地区では協議会を立ち上げ、町並み保全に向けての活動を始めたところです。石州街道出口地区で培ったノウハウを伝授し、互いのまちづくりの情報交換を行っていききたい。

また、「銀の道」をキーワードに、銀の道沿道になる石見銀山の島根県をはじめ、広島県三次市、尾道市、福山市鞆地区、そして岡山県笠岡市などと広域的に連携し、活動を広げていくことが大切だと考えています。

大学生の話にもあったように、インターネットを活用した情報発信と地域間連携を今後は考えていきます。